

**授業仮説（本時1／題材14時間）**

生徒と共に「題材の課題」を設定することにより、題材全体の課題と1単位時間の課題の必要性や理由が明確となり、生徒が自分事として問題を発見し、課題を設定することができるだろう。

**I 題材**

**1 題材名 「作物の栽培方法について考えよう」**

**2 題材の目標**

- 【興味・関心】作物育成の技術を主体的に理解し、新しい考え方や捉え方で解決策を構想し、他者との交流を通して問題解決とその過程を振り返り、改善・修正することで、持続可能な社会の構築に向け工夫しようとしている。
- 【発想・工夫】作物育成の技術の見方・考え方を働かせ、問題を見だし課題を設定し解決する力を身に付け、持続可能な社会の構築に向け、技術を評価し、適切に管理・運用し、新たな発想で改良、応用することができる。
- 【技能】作物育成環境を調節する方法などの基礎的な技術の仕組みを理解し、安全・適切な栽培ができる技能を身に付けることができる。
- 【知識理解】生活や社会に果たす役割や影響に基づいた生物育成の技術の概念を理解することができる。

**3 題材の評価規準**

- 【興味・関心】作物育成の技術を主体的に理解し、新しい考え方や捉え方で解決策を構想し、他者との交流を通して問題解決とその過程を振り返り、改善・修正することで、持続可能な社会の構築に向けた工夫を生かそうとしている。
- 【発想・工夫】作物育成の技術の見方・考え方を働かせ、問題を見だし課題を設定し解決する力を身に付け、持続可能な社会の構築に向け、技術を評価し、適切に管理・運用し、新たな発想で改良、応用したことを表現している。
- 【技能】安全・適切な栽培ができる技能を身に付けている。
- 【知識理解】作物育成環境を調節する方法などの基礎的な技術の仕組みや生物育成の技術の考え方や社会に果たす役割や影響の重要性を理解することができる。

**II 考察**

**1 生徒の実態（〇〇名）**

本題材の学習にあたり、授業の観察から本学年の生徒の実態を捉えた。

〈関心・意欲・態度〉

—略—

〈発想工夫〉

—略—

## 〈技能〉

—略—

## 〈知識・理解〉

—略—

### 2 教材観

小学校理科では、第3学年で「昆虫と植物」について学習している。また、中学校第1学年で、「植物の生活と種類」について植物について学習している。

技術・家庭科（技術領域）では中学校1年生で題材「バジルを育てて家で活用しよう」で植物の成長や利用について学んでいる。

今回、スプラウト（芽だし作物）を選択した理由は、短時間で、栽培が可能で時間数の少ない教科として、1週間ごとに改善して次の栽培に生かすことができるため有効な教材であるためである。また、露地栽培を学んだ後に、別の育成方法として、水耕栽培をベースに施設栽培、容器栽培と栽培環境を変えることができる。その他、数種類の種を選択でき、対照栽培を行うには適した教材と考える。班ごとに考えた視点で対照栽培することにより、さまざまな発想で育成した結果が得られ、それらの情報を共有することで、学びの質を高めることができると考えた。

### 3 校内研修との関わり

—略—

## Ⅲ 指導方針

### 〈関心・意欲・態度〉

- ・課題意識を高め、継続できるよう導入と発問、対話によって自らの考えで課題をとらえる事ができるようにする。
- ・各班との情報交換により、自分たちで最終的な自己決定をし、自分の分担を行うことにより、積極的に学習に取り組めるようにする。
- ・目的をもって、自分たちの考えた作物作りを実施することによって、積極的な発言や交流に結びつけていく。

### 〈発想・工夫〉

- ・自分の考えをもつための時間と他者との意見の比較をする時間を設け、他者の意見を取り入れたり、自分の考えを選んだりしながら最適化をはかり、考えの深まりができることを感じさせる。
- ・ねらいをもたせた多様な集団解決の手法を取り入れて、自らの考えをもち、伝え、交流して意見交換することで課題解決につながっていくことを実感させる。

### 〈技能〉

- ・班で協力し合って段階を考えた対照栽培の場面をつくり、育成の方法や記録のとり方の技能を高めることによって、自分たちで考えた対照栽培について分析し、1週間後の経過を通して、次の改善につなげることができる。
- ・対照栽培ができるように、対照栽培の映像を用いたり、具体的に対照栽培していくために必要な要素を短冊から選んで並べたりすることで、栽培の流れが分かりやすくなるように工夫を行う。

### 〈知識・理解〉

- ・集団解決の場面で「知識」の共有や決定することによって「知識」の定着をはかる。
- ・作業を伴う対照栽培の結果から自分たちの考えた「作物」作りができたかどうかの検証ができる限り客観的に

まとめられるように、道具や機材で協力できることがあれば準備し、関わりある資料を用意し、実感を伴った体験と結びついた知識にできるようにする。

### 〈その他の配慮事項〉

- ・作物を扱うため、衛生面を大切にし、水の取り替えを徹底する。また、おいしさを考えた育成方法を選択し、主観的に食べ比べを行う場合には、食べる前に十分なすすぎ等を行い、安全面・衛生面に配慮する。
  - ・作物の大切さと生活をするために経済的な部分が不可欠であるジレンマを提示し、理想だけでは成り立たず、かといって理想的な部分は追求しなければより良い結果は得られないことに気づかせ、改善するために「最適化」し、その結果から新たな課題を考えることの必要性を感じてもらえるようにする。
- 製作（制作）の発想工夫が良いが、製作技術が伴わず、実現するためには高度な技術が必要となる場合や一般的な方法では不可能な場合もある。最適化し、自分の力でできる方法に変えたり、部品を利用したりして課題を克服する必要も出てくる。そのため、生徒のとてもいいアイデアを生かせるような方法を見つけ出すためにも、アドバイスや資料、友達との対話などで工夫ができるようにしていく必要があると考える

## IV 本時の学習

- ねらい** 植物を育成する理由を発見し、生産者の立場で事業を持続していくために必要な工夫を考え、教師と共に「題材を貫く課題」を設定する。
- 準備** 生徒：教科書、ノート、筆箱  
教師：短冊（磁石つき）、プロジェクター、ビデオ（記録用）タブレット、コンピュータ  
大きな掲示短冊（題材の課題記入用）

### 3 展開

過程	学習活動 ・予想される生徒の反応	時間	支援・指導上の留意点 【具体的な発問（◎）、生徒の反応（△）】
つかむ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <b>めあて クラスで目指す生物育成の目標（課題）を設定しよう</b> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中1での「バジル」を育成したことを振り返り、旬の作物を買う視点（ポイント）を出してもらう。 （消費者の視点）</li> <li>・旬の作物を考える</li> <li>・野菜や果物の購入基準を考える</li> <li>・震災、豪雨について考える。 （消費者の視点）</li> </ul> <p>いつも野菜（作物）があると限らないことを知る。 （生産者の視点）</p> <p>自然災害により、大きな打撃を受ける。</p>	25	<p>※生物育成に関わることの振り返り（中学校）</p> <p>◎「去年、中で作ったバジルの旬はいつだろうか」 △「6月から8月くらい」</p> <p>◎「今、旬の作物（野菜や果物）はどんなものがあるだろうか」 △「イチゴ」「サクランボ」「ジャガイモ」</p> <p>◎「初夏になりますが、どんな基準で野菜や果物を買っていますか？」 △「おいしさ（甘さ）」「新鮮さ」「安さ」「食感」「日本産（産地）」「栄養価が高い」「安心安全」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> <b>※共感的に対応し、消費者の視点でおさえておく</b> </div> <p>「消費者として、確かにこんな点に気をつけることはよく分かるね」</p> <p>★写真の提示（スーパーの陳列棚に商品がない）<b>！ギャップ！</b></p> <p>◎「一年ほど前、こんなことになってしまったようだけど、どうしてか分かりますか」 △「洪水、崖崩れで商品がストップして」「北海道の地震で」</p> <p>※災害や豪雨などにより、いつも野菜（作物）があると限らないことを知る。</p> <p>◎「つい先日、この天気により大きな被害が野菜生産</p>

	<p>・野菜と関わるやるベンチャーの事業所で働いた生徒の感想と写真に出ている生徒（関根君）のインタビューの感想を知る。</p> <p><u>(〇-〇 〇〇君→農薬の使用が少ない安全な作物作りを考えていた)</u></p> <p>生産者（販売者）の工夫と努力によって<u>安全な作物の供給</u>を知る。</p> <p>（製造【販売】または生産者の視点）</p> <p>※生産者（販売者）の思いやお客さんに対する気持ちや注意していることを知る。</p> <p>・キャベツを潰している農家の理由を知る。</p>		<p>者に被害もあったそうです。どんな天気だったとおもいますか」</p> <p>△「竜巻、雹（ひょう）、真夏日」</p> <p>◎「雹害により千葉や茨城県では野菜が 1000 万円ほどの被害だったそうです。」</p> <p>★写真の提示（やるベンチャーの写真）</p> <p>やるベンチャー職場体験学習を踏まえて感じ取ったことを思い返す。（写真に出ている生徒にインタビューした生徒の感想の紹介とスーパーで働いた生徒に質問する。）</p> <p>◎「（野菜に関わる）事業所はどんなことを大切にしていますか」</p> <p>△「お客さんの喜んだ顔」「お客さんを大切にしている」「収入」「無駄を減らす」</p> <p>※共感的に対応し、生産者（販売者）の視点でおさえる</p> <p>「生産や販売する人たちのお客さんに対する気持ちが分かるね。」</p> <p>★写真の提示（キャベツをトラクターで潰す写真）<b>!</b></p> <p><b>ギャップ!</b></p> <p>◎「お客さんに喜んでもらうために作った作物を、潰しているのはなぜでしょうか」</p> <p>△「病気だから」「虫がたくさんついてしまったから」「出来すぎてしまったから」「収入が入らなくてやっていけないから」</p> <p>※生産や販売する人たちが生活できないと続かないことを知る</p>
<p>追求する</p>	<p>・どんな作物が求められているのかについて考える。</p> <p>・思考する（個人）</p> <p>※短冊に書き込む</p> <p>・交流する（ペア→班）</p> <p>・まとめる</p> <p>※班長にホワイトボードに短冊整理の「お題」を書いてもらい、短冊の整理を中心になって進めてもらう。</p> <p>※黒板にホワイトボードを貼り出す。</p>	<p>20</p>	<p>◎★「これからの時代、どんな作物が求められてくるだろうか、未来の予想をして、消費者、生産者の視点で求められる作物を考えよう」</p> <p>※短冊を配布して、まとめる。（一人2枚を基本として）</p> <p>◆個人（自分で考える）</p> <p>◆ペア学習（自分の短冊を相手に説明する）</p> <p>◆グループ学習（班長に短冊を整理してもらう）</p> <p>「予想：経済も良くなりつつあるので『おいしい作物』」</p> <p>「予想：雨が頻繁に起こるので「水に強い作物」</p> <p>「予想：健康指向が増すので「栄養価のある作物」等</p> <p>※机間巡視しながら、班長の整理がスムーズに進むように手助けする。</p>
<p>まとめる</p>	<p><b>まとめ</b></p> <p>・生産者、消費者ともに良い作物についての総称を考える。</p> <p>※合意形成して「題材で目指す作物」を決める。</p>	<p>5</p>	<p>※「いろいろな作物が出てきたね。これらの作物は消費者にとっても生産者にとっても良いものであるようだね。」</p> <p>◎「これらの消費者、生産者ともに良い関係の作物をなんと呼んだらよいでしょうか」</p> <p>△例『winwin な作物』『魅力的な作物』</p> <p>※「それでは来週からこの作物を作るために、班で考え、協力して育成していこう。</p>

<p><b>評価項目（評価方法）＜評価の観点＞</b></p> <p>○日頃の生活と関わらせ、生物の命の大切さに気づくことができる。（興）</p> <p>○多面的な視点で自分の考えを短冊に書くことができる。（工）</p>	<p><b>振り返り</b></p>	<p>・振り返りカードに記入する。</p>	<p>振り返りカードの上に「題材の課題「『○○な作物』を育成するためにはどうすればよいだろうか」の記入場所を設けて、そこにも記入させる。</p> <p>※授業終了後、次の授業で短冊を使うので、班長にまとめて、ビニール袋に入れてもらい、教師に提出させる。</p>
--	--------------------	-----------------------	--

**板書計画**

めあて	クラスで目指す生物育成の目標（課題）を設定しよう	どんな作物が求められているのかについて考えよう
旬の作物（果物、野菜） 様子 さくらんぼ、イチゴ	震災と雹被害の ●商品なにもない ●やるベンから ●作物をつぶす	個人で ※短冊に記入
ジャガイモ	生産者 自然の悪影響を受けない 安全性 消費者（お客）が大切 持続していける収入	グループで
↓	↓	まとめ クラスとして目指す生物育成の目標は？
消費者 おいしさ 新鮮さ（品質） 安さ（経済性）		

題材構想 技術・家庭科 2年 生物育成 6月～12月 全14時間予定

<b>題材の目標</b> ●〔興味・関心〕 作物育成の技術を主体的に理解し、新しい考え方や捉え方で解決策を構想し、他者との交流を通して問題解決とその過程を振り返り、改善・修正することで、持続可能な社会の構築に向け工夫しようとしている。 ●〔発想・工夫〕 作物育成の技術の見方・考え方を働かせ、問題を見だし課題を設定し解決する力を身に付け、持続可能な社会の構築に向け、技術を評価し、適切に管理・運用し、新たな発想で改良、応用することができる。 ●〔技能〕 作物育成環境を調節する方法などの基礎的な技術の仕組みを理解し、安全・適切な栽培ができる技能を身に付けることができる。 ●〔知識・理解〕 生活や社会に果たす役割や影響に基づいた生物育成の技術の概念を理解することができる。					
<b>題材の系統</b>		①植物に係る関連として 小学校 社会科3年 農家の仕事 5年 日本の米作り 林業 6年 米作りの歴史と社会 家庭科 5, 6年 衣食住の働き ②直接植物を育成すること 小学校 生活科1, 2年 花や野菜の育成 理科3年 植物の育成方法 5年 植物の発芽と成長 6年 植物のからだの働き 中学校 理科1年 植物のつくり 技術・家庭科(技術領域) 1年 パジルを育てて活用しよう ①小学校、②中学校1年 → 本題材(中学校2年) → 情報3年(プログラミングによる自動化)			
<b>本題材に係る生徒の実態</b>		●〔興味・関心〕 生物に対して、適切に育成していく大切さを身に付け、成長の様子に気付き、植物を大切にしようとしている。 ●〔発想・工夫〕 温度や光、育成に必要な土壌の状態、水の重要性について技術領域や理科で学習し、土を利用した基本的な育成法をもとに、植物の様子から判断し、水やりなどの管理ができる。 ●〔技能〕 土を利用してパジルを容器栽培し、育成するために必要な技能を身に付け、家庭で調理に活用している。 ●〔知識・理解〕 パジルの育成と育成に係る環境要因(気象的要因、生物的要因、土壌的要因)や栽培方法の種類など基本的な育成方法について理解することができる。			
小題材	時間	ねらい	主な学習活動	主な支援・指導上の留意点	評価項目 <評価の観点>
	1 (本時)	◎消費者と生産者のどちらにも必要とされる作物について、教師と共に「題材の課題」を設定する。	○一般的な消費者と生産者の視点で考え、その視点とは異なったら揺さぶりの写真から日頃気付かない、それぞれの視点に気づく。得られた視点から、これから必要とされる作物を短冊に書き表し、クラスでグルーピングして、必要な作物についてクラスで呼び方を決定する。	短冊に記入した内容を黒板でグルーピングすることにより、いろいろな考えを知ることができ、目標となる題材の課題をみんなで設定することができる。	・日頃の生活と関わらせ、生物の命の大切さに気づくことができる。(興) ・多面的な視点で自分の考えを短冊に書くことができる。(工)
	2	◎「消費者と生産者のどちらにも必要とされる作物」に対して、個人で追及したい作物を決め、グループを作る。	○「消費者にとっても生産者にとって必要とされる作物」を作るために、前時の短冊を参考に、自分が追及したい作物を決定する。同じ考えで育成しようとする仲間グループを作り、育成方法について考える。	○前時のクラス全員で書いた短冊の考えを参考にし、自分で追及したい作物を決定する。	・友達の短冊を参考にし、自分の追及したい作物を決定することができる(興)
	3	◎2段階の試行栽培(基本栽培、対照栽培)の方法を知り、自分たちの班の目的に沿った対照栽培の、環境要因の条件を話し合う。	○グループで決定したスプラウトの対照栽培方法について、予想をもとに具体的な方法を考え、準備する。	○それぞれのグループの対照栽培の方法を協力し合って決定しようとしている。	・目的を持って対照栽培の計画を立てようとしている。(興) ・より良いスプラウトを育てるための工夫を取り入れようとしている。(工)
	4	◎試行栽培の記録方法や基本栽培の育成方法を理解し、基本栽培を行う。また、対照栽培の環境要因の条件を決定する。	○対照栽培の結果を記録に残し、検証に役立てるため記録機器の使い方などを知る。 ○基本栽培の計画に沿って、種まきをする。	○対照栽培の方法を協力し合って決定し、具体的な方法を定めることができる。また、基本栽培を協力して実施している。	・対照栽培の目的に沿って、具体的な計画を工夫することができる。(工) ・栽培方法に沿って、基本栽培の種まきを行うことができる(技)
	5	◎基本栽培の記録を行い、収集した資料を整理する。対照栽培を実施する。	○基本栽培について栽培記録を行い、自分たちが考えた対照栽培を班で協力して、今後の検証に向けて変更点を意識しながら種まきを行う。	○対照栽培の方法を協力し合って決定し、具体的な方法を定めることができる。また、対照栽培を協力して実施している。	・栽培計画に沿って、資料(写真や観察記録)を集め発表に向けて、整理することができる。(工) ・栽培方法に沿って種まきを行うことができる(技)
	6	◎対照栽培により明らかになった結果から考察し、まとめることができる。	○自分たちの対照栽培の結果をホワイトボードに見やすくまとめる。	○班のメンバーで協力して対照栽培の結果をまとめる。	・自分たちの対照栽培の結果をまとめようとしている。(興、工)
	7	◎各班の対照栽培によって明らかになった結果を相互交流による集団解決により最適化し、本栽培に生かそうとしている。	○自分たちの比較栽培の結果と他班の結果について、組み合わせるとできるかもしれない改善点などを考える。	○各班のまとめ資料と比べ、他班に質問しながら新たなアイデアをワークシートにまとめる。	・まとめたことを分かりやすく説明しようとし、相手の説明をしっかり聴こうとしている(興)
	8	◎相互交流により得た環境要因の条件変更を決定し、本栽培で実施するための計画を立てることができる。	○本栽培の作物を育成するために、試作栽培(対照栽培)で有効だった環境要因の条件を変更し育成するための計画を立てる。	○本栽培の栽培方法を協力し合って決定し、具体的な方法を定めることができる。	・本栽培の目的に沿って、具体的な計画を工夫することができる。(工)
<b>題材の評価規準</b> ●〔興味・関心〕 作物育成の技術を主体的に理解し、新しい考え方や捉え方で解決策を構想し、他者との交流を通して問題解決とその過程を振り返り、改善・修正することで、持続可能な社会の構築に向けた工夫を生かそうとしている。 ●〔発想・工夫〕 作物育成の技術の見方・考え方を働かせ、問題を見だし課題を設定し解決する力を身に付け、持続可能な社会の構築に向け、技術を評価し、適切に管理・運用し、新たな発想で改良、応用したことを表現している。 ●〔技能〕 安全・適切な栽培ができる技能を身に付けている。 ●〔知識・理解〕 作物育成環境を調節する方法などの基礎的な技術の仕組みや生物育成の技術の考え方や社会に果たす役割や影響の重要性を理解することができる。					

題材構想 技術・家庭科 2年 生物育成 6月～12月 全14時間予定

<b>題材の目標</b> ●〔興味・関心〕 作物育成の技術を主体的に理解し、新しい考え方や捉え方で解決策を構想し、他者との交流を通して問題解決とその過程を振り返り、改善・修正することで、持続可能な社会の構築に向け工夫しようとしている。 ●〔発想・工夫〕 作物育成の技術の見方・考え方を働かせ、問題を見だし課題を設定し解決する力を身に付け、持続可能な社会の構築に向け、技術を評価し、適切に管理・運用し、新たな発想で改良、応用することができる。 ●〔技能〕 作物育成環境を調節する方法などの基礎的な技術の仕組みを理解し、安全・適切な栽培ができる技能を身に付けることができる。 ●〔知識・理解〕 生活や社会に果たす役割や影響に基づいた生物育成の技術の概念を理解することができる。					
<b>題材の系統</b>		①植物に係る関連として 小学校 社会科3年 農家の仕事 5年 日本の米作り 林業 6年 米作りの歴史と社会 家庭科 5, 6年 衣食住の働き ②直接植物を育成すること 小学校 生活科1, 2年 花や野菜の育成 理科3年 植物の育成方法 5年 植物の発芽と成長 6年 植物のからだの働き 中学校 理科1年 植物のつくり 技術・家庭科(技術領域) 1年 バジルを育てて活用しよう ①小学校、②中学校1年 → <b>本題材(中学校2年)</b> → 情報3年(プログラミングによる自動化)			
<b>本題材に係る生徒の実態</b>		●〔興味・関心〕 生物に対して、適切に育成していく大切さを身に付け、成長の様子に気付き、植物を大切にしようとしている。 ●〔発想・工夫〕 温度や光、育成に必要な土壌の状態、水の重要性について技術領域や理科で学習し、土を利用した基本的な育成法をもとに、植物の様子から判断し、水やりなどの管理ができる。 ●〔技能〕 土を利用してバジルを容器栽培し、育成するために必要な技能を身に付け、家庭で調理に活用している。 ●〔知識・理解〕 バジルの育成と育成に係る環境要因(気象的要因、生物的要因、土壌的要因)や栽培方法の種類など基本的な育成方法について理解することができる。			
小題材	時間	ねらい	主な学習活動	主な支援・指導上の留意点	評価項目〔評価方法〕〈評価の観点〉
	9	◎本栽培で実施するための栽培計画を立てることができる。	○環境要因の条件が設定できたら、具体的な方法と栽培計画を考える。	本栽培の栽培方法を協力し合って決定し、具体的な方法を決めることができる。	・本栽培の目的に沿って、具体的な計画を工夫することができる。(工)
	10	◎作物を植え付けし、班で計画した環境要因の条件で育成できるように準備することができる。	○本栽培の作物の種まきを行い、環境要因の条件変更に合わせて、設置場所や光や水やりについて、班で確認する。栽培記録をとる。	本栽培を協力して実施している。季節に関係なく育てる班は、季節に合っていない作物の育成になるので、室内での育成と環境の調整ができるように断熱材などを準備しておく。	・栽培方法に沿って種まきを行うことができる(技)
	11	◎土寄せなどの管理を行い、栽培計画に沿って作業を行い、育成の様子から、計画方法について班で話し合い、調整できる。	○本栽培の作物の管理を行って育成する。栽培記録をとる。班の話し合いによって、今後の育成方法の調整を考え、場合によっては目的に合わせて、条件を変更する。	班のメンバーで協力して本栽培の作物を管理する。目的の作物にするために、途中で条件変更を行えるように肥料などの準備をしておく。	・栽培方法に沿って土寄せなどの管理を行うことができる(技)
	12	◎収穫をして、記録を取り、今回の本栽培について班でまとめることができる。	○本栽培の作物の収穫を行い、写真や収穫物の重さなどを記録する。栽培記録をとる。また、ホワイトボードで環境要因の条件変更による様子をまとめる。	班のメンバーで協力して本栽培の作物を収穫する。ホワイトボードには対照栽培の結果をまとめる。	・栽培方法に沿って収穫を行うことができる(技)
	13	◎本栽培によって明らかになった結果を数班で共有し、環境要因の条件変更の効果について情報共有し、より良い栽培方法について考えることができる。	○本栽培の作物の育成結果について他の班の情報を収集し、栽培条件の変更に伴う効果について考え、整理する。	班のメンバーで協力して本栽培の結果をまとめ、共有する	・自分たちの本栽培の結果をまとめようとしている。(興、工)
	14	◎「消費者と生産者のどちらにも必要とされる作物」を作るために、工夫した各班の見方・考え方を整理し、「持続可能な社会」を実現するための工夫を考えることができる。	○これから起きるであろう事を想像し、これからの未来に向けて、学習した内容から、できそうなことやこれから必要とされることを考えまとめる。	今までの活動から得た見方・考え方を基に持続可能な社会の実現のために工夫やアイデアについて記述できるよう、十分な時間や今までの資料の活用を促す。	・対照栽培したことから、生産者の立場で、「魅力のある作物」についてまとめようとしている。(興) ・持続可能な社会に向けて自分の選んだ視点でまとめることができる。(工)
<b>題材の評価規準</b> ●〔興味・関心〕 作物育成の技術を主体的に理解し、新しい考え方や捉え方で解決策を構想し、他者との交流を通して問題解決とその過程を振り返り、改善・修正することで、持続可能な社会の構築に向けた工夫を生かそうとしている。 ●〔発想・工夫〕 作物育成の技術の見方・考え方を働かせ、問題を見だし課題を設定し解決する力を身に付け、持続可能な社会の構築に向け、技術を評価し、適切に管理・運用し、新たな発想で改良、応用したことを表現している。 ●〔技能〕 安全・適切な栽培ができる技能を身に付けている。 ●〔知識・理解〕 作物育成環境を調節する方法などの基礎的な技術の仕組みや生物育成の技術の考え方や社会に果たす役割や影響の重要性を理解することができる。					